

# 会 議 録

|                    |   |
|--------------------|---|
| 会 議 の 名 称          | 令和5年度第1回坂戸市健康なまちづくり審議会  |
| 開 催 日 時            | 令和5年7月3日 13:30～15:00  |
| 開 催 場 所            | 坂戸市立市民健康センター機能訓練室   |
| 会 長 の 氏 名          | 金子 嘉徳   |
| 出席者（委員）の<br>氏名・出席者 | 川畑著洋 真殿仁美 金子嘉徳 中西明美 稲垣弘美 倉知晃<br>鈴木博貴 角田津英子<br>8名  |
| 欠席者（委員）の<br>氏名・欠席者 | 清水要 山王丸靖子 深井智子 志村和人 助川文子<br>5名  |
| 傍 聴 者 数            | 1名  |
| 事務局職員の<br>職 氏 名    | こども健康部長 井上晋<br>こども健康部次長 三谷良昭<br>こども健康部副参与兼市民健康センター所長 有田さおり<br>市民健康センター副所長 片桐美佳<br>市民健康センター所長補佐 飯嶋佐起子<br>市民健康センター健康政策係主事 中村葉<br>市民健康センター健康政策係主事 相川佳奈   |
| 地 域 計 画 (株)        | 中林大樹  |
| 会 議 次 第            | 1 開会<br>2 挨拶<br>3 審議事項<br>（1）第2次坂戸市健康なまちづくり計画に関連する事業の実施状況について<br>（2）第3次坂戸市健康なまちづくり計画策定に係る「こころとからだの健康に関する市民アンケート」の結果について<br>（3）子育て世代に関するアンケート調査結果について<br>（4）第3次坂戸市健康なまちづくり計画骨子案について<br>（5）その他<br>4 その他<br>計画策定スケジュールについて<br>5 閉会 |
| 配 布 資 料            | 本日の会議次第<br>資料1-1 第2次坂戸市健康なまちづくり計画の「目標項目」別の取組状況（R4）<br>資料1-2 第2次坂戸市健康なまちづくり計画に関連する事業【令和4年度に実施した事業】<br>資料2-1 第2次坂戸市健康なまちづくり計画の「目標項目」別の取組状況（R5）<br>資料2-2 第2次坂戸市健康なまちづくり計画に関連する事業【令和5年度に実施する事業】<br>資料3 こころとからだの健康に関する市民アンケート調査報告書   |

|     |  |
|-----|--|
|     | 資料4 子育て世代に関するアンケートの調査の結果について（完成版）<br>資料5 健康日本21（第三次）について<br>資料6 第3次坂戸市健康なまちづくり計画（骨子案）<br>資料7 第3次坂戸市健康なまちづくり計画策定スケジュール（令和5年度）   |
|     | 議事の経過  |
| 発言者 | 議題・発言内容・決定事項   |
| 事務局 | 審議事項（1）説明  |
| 会長  | 何か質問がありますか。  |
| 委員  | 資料1-2に評価がついていますが、この評価CとDになった事業も引き続き取り組むという考えでよろしいでしょうか。  |
| 事務局 | 令和4年度に評価が達成できていない事業については、今年度も引き続き課題としてとらえ、実施していく予定です。  |
| 会長  | ありがとうございました。他にご意見はありますか。   |
| 委員  | 令和4年度の実施した事業のうち、食育推進計画の事業については、45事業中10事業が中止となったとのことですが、コロナ禍で食に関する事業は難しいことも多かったと思いますが、令和5年度は実施出来そうでしょうか。  |
| 事務局 | コロナがある程度落ち着いてきておりますので、令和5年度については実施される事業が多くなる見込みです。   |
| 事務局 | 審議事項（2）説明  |
| 会長  | 何か質問がありますか。  |
| 委員  | 市民アンケートの結果についてご質問です。アンケート結果から見えた問題点や課題はありますか。また、どの分野を特に重点的に改善していく必要があるとお考えでしょうか。   |
| 事務局 | 市民アンケートの結果は、今回の計画の評価にも使わせていただいておりますが、評価Aがかなり少ない状況となっており、全体的に引き続き取り組んでいかなければならない課題と考えています。特に食の分野がコロナ禍の影響もあり低下傾向にみられているという結果がございますので、重点的に取り組んでいくべきであると考えております。                                       |
| 会長  | 他に質問がありますか。  |
| 委員  | クロスは大変参考になる結果でしたし、一般的な結果ともほぼ同じような結果が出ているのではないかと感じました。<br>主食・主菜・副菜や朝食など食の分野に関しては、体格とクロスされていますが、最終的なゴールが「こころとからだの健康」において生きがいを持って生きる市民を増やすことだとすると、食や運動などとクロスを行うことで「生きがい」が何と関連しているのかが見えてくるのではないかと思います。 |
| 事務局 | 基本理念のところは変わらずに行こうと考えておりますので、最終的には「誰もが幸福を感じ自ら健康だといえる日本一健康なまちさかど」というところをゴールにしております。健康の部分、食の部分、合わせて誰もが幸福を感じ自ら健康だと言えるようなゴールを目指して計画を策   |

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
|   |   | 定していきたいと考えています。   |  |
| 会 | 長 | 地域別のクロスを行っていますが、その結果をどのように活かしていくのが、非常に重要なことだと思います。  |  |
| 事 | 務 | 局   | 取り組むべき行動目標と実践のところで、地域よっての健康格差をなくす為、地区によってどの分野に力を入れるのか、アンケート結果を政策に活かしていきたいと考えております。   |
| 会 | 長 | 他に質問がありますか。   |  |
| 委 | 員 | 市民アンケートの48ページの間37ですが、糸ようじ歯間ブラシ、補助用具を「毎回使用している」、「たまに使用している」、「あまり使用していない」、「全く使用していない」に分けていますが、毎回というのは結構厳しいので、毎回ではなく一日一回やってもらえばいいのではないかと思います。設問が「毎回使用しない」の次は「たまに使用している」となってしまうため、その間に「一日一回」という回答があってもいいのかなと思います。 |  |
| 事 | 務 | 局   | 今後評価を作成していく際に、今頂きましたご意見の方を反映させていきたいと思ひます。  |
| 会 | 長 | 他に質問がありますか。   |  |
| 委 | 員 | 地区ごとの集計をしているかと思いますが、各地区同じくらいの回答になるように、対象者を抽出しているのでしょうか。   |  |
| 事 | 務 | 局   | 地区ごとに同じくらいの人数に回答していただけるように調整し無作為抽出しております。  |
| 事 | 務 | 局   | 審議事項(3)説明  |
| 会 | 長 | 若い世代にフォーカスし、「子育て世代に関するアンケート」を実施した理由をもう一回説明していただけますでしょうか。  |  |
| 事 | 務 | 局   | 子育て世代の健康についての課題や傾向を捉えるために実施いたしました。また、市民アンケートの回答率をみますと若い世代の回答率が低いため、子育てしている人の運動や食に関する考え方を把握し、計画に反映したいと考えています。子育て世代へのアンケート結果をみますと、子育て世代の特徴として、検診がなかなか受けられていないこと、食育の関心度は高い傾向にあること、幸せ度が高い傾向にあることが分かります。こういったことを計画に反映していきたいと考えています。 |
| 会 | 長 | 他に質問がありますか。   |  |
| 委 | 員 | 若い世代の方が、問8の主食・主菜・副菜が揃った食事が少ない状況だという事で、子育てしながら働いている方も多いので、食育の関心は高いのに時間がなくて揃えられない方が多いと思います。こういった食環境なのか、スーパーに何か並べばいいのか、食に関心が高い世代なので、簡単にできる料理のレシピを提供するなど何らかの施策があるといいと思いました。                                       |  |
| 会 | 長 | ありがとうございます。他に何かご意見、感想等お願いできたらと思いますが、いかがでしょうか。   |  |

|           |  |
|-----------|--|
| 委 員       | <p>検診を受けた方がとても少ないということですが、若い世代なので体に自信があることや、時間がないからという理由が多いと思いますが、お母さん、お父さんが健康でないとお子さんは大変なので、なんとかできないのかと思いました。</p>   |
| 会 長       | <p>ありがとうございます。他にご意見ございますか。</p>   |
| 委 員       | <p>こころとからだの健康についての市民アンケートと子育て世代に関するアンケートを見比べてみると、対象別で対策を講じていく必要があるのではないかと思います。その際に、年代に応じて情報の入手の仕方が違いますので、どのように誰に向けてどんな情報を配信していくのかというのが次の計画で問われるのではないかと思います。先ほど、地区別についての質問があったかと思いますが、これは非常に重要だと思います。今回、詳しいデータを頂いて、地区によってもかなり温度差があるというのも見えてきました。今後、対象別であったり、地区別であったり、さらには情報の配信の仕方など、うまく組み入れながら計画を立てていく必要があるのかなと思いました。</p>   |
| 事 務 局     | <p>アンケート結果からも、年代別に情報を受取る方法が違うという結果が出ておりますので、その辺りを意識し、若い方に対する課題に働きかけていく場合はSNSなどを活用していきたいと考えています。</p> <p>中高年やもう少し高い年齢の方には自分が所属している団体や、広報などから情報入手されている方が多いため、そういった媒体を活用するなど、世代にあった方法を活用していきたいと考えております。</p>  |
| 事 務 局     | <p>ご質問の回答について、1点訂正がございます。審議事項（2）の市民アンケートの調査対象者の地区別の抽出についてですが、地区別で調査人数を調整して抽出はしておりません。回答率を考慮して年代別で対象人数を調整し、無作為抽出しております。訂正してお詫び申し上げます。</p>   |
| 事 務 局     | <p>審議事項（4）説明</p>   |
| 地 域 計 画 課 | <p>補足のご説明をさせていただきます。食育について「朝食の摂取」の問題がありますが、市民の皆様の朝食摂取率を上げるためには、朝食を摂ることのメリットを知ってもらうことが必要だと考えます。広島県の研究結果で、朝食摂取とイライラを感じるものの関連性を調査したデータがあり、朝食を摂取している人の方がイライラを感じると回答した割合が低かったというデータがでています。こういったデータを周知することで朝食を摂取したいと感じる人も増えるのではないのでしょうか。</p> <p>また、歯科口腔についてですが、8020 運動によって高齢者の歯の数が増えたという成果が出た代わりに、虫歯の人が増えたといったケースもあるそうです。こういったこともケア、予防できるような施策を盛り込んだ計画にできればいいかと思います。</p> |
| 会 長       | <p>何か質問がありますか。</p>   |

|     |  |
|-----|--|
| 委員  | <p>朝食の摂取率について、100%毎日食べているという結果は坂戸市に限らず、どこの自治体でも見たことがありません。どうしても数パーセントの方は朝食を食べていないという方がいらっしゃいます。そういった方へのアプローチとして、朝食をとる効果を提示するというのが大切だと考えています。先ほど、地域計画様から広島県の研究結果をご提示いただきましたが、坂戸市の結果としてクロスで出ればもう少し説得力があるのではと思いましたが。広島の方だとかなり違う場所ですし、それをそのまま「効果がありますよ」というのは、難しいと思います。おそらく効果は分かっている、うちは出来ないというご家庭ではないかと思えます。そう考えると食関係の整備が重要になってくると思えますので、食関係の整備を先ほどの子育て世代の主食、主菜、副菜が揃わないというところと合わせて、是非、日本一の食育が出来たらいいと考えています。</p> <p>数年前にはなりますが、農林水産省が食育の効果について一般の方向けのデータはもちろん、論文やエビデンステーブルをまとめています。イライラ感だけではなく、その他でも確実に朝食は効果があることがわかっているので、その効果なども精査いただくのがいいかと思っています。</p>   |
| 事務局 | <p>今頂いたご意見ですが、骨子の47ページに現状と健康、望ましい食の理解と実践のところで「朝食を食べていない」が20代で多いとの結果がありますので、この点も合わせまして若い世代の働きかけとして、SNSなどの媒体を活用していきたいと考えています。</p>  |
| 会長  | <p>他に何か質問がありますか。</p>   |
| 委員  | <p>この調査報告書なども踏まえると次の計画に何を盛り込むべきなのかという事が見えてきます。</p> <p>この報告書を見て課題として、引き続き取り組む必要であると思われる分野としては、34ページにありました運動、歯の検診15ページです。そして相談する人がいないという回答が51ページ、対象別に取り組む必要がある51ページ、地区別の温度差があるということが分かりました。こういったことを計画に盛り込んでいく必要があるのではないかと思います。</p> <p>資料5の3ページに非常に必要なキーワードとして「住民の行動変容を促す為の方策」とあります。どのように住民の行動変容に繋げていくのか、具体的にどうすれば健康に対する意識の向上が見られるのか、その場合一人一人のリテラシーが問われてくるかと思えます。このリテラシーを高めていく、向上させていくための働きかけをどうするのかをこの計画に盛り込んでいく必要があるのではないかと思います。それを考えたときに従来のライフスタイル、モデル的なライフスタイルというもの位置付けて働き掛けするというのは非常に難しいのではないかと考えます。健康についての捉え方も多様な視点が必要になりますし、私たちの生活も多様になっています。そうなるとモデルスタイルの、「朝、朝食を取って仕事に行きましょう」などについては、朝の始まりが必ず</p> |

|     |   |
|-----|---|
|     | しも7時8時とは限りません。学生に聞くと夜8時からバイトに行って朝4時に帰ってくるなど、そういうスタイルもあります。多様なライフスタイル、そして、健康の捉え方も様々な視点があって、その中でいかにヘルスリテラシーというものを高めていくのか、こういう視点から計画をもう一回見直す必要があるのではないかと思います。  |
| 事務局 | 資料5の4ページにあるように、「社会が多様化する中で各自の健康課題も多様化している」という事で誰一人取り残さない健康づくりの推進というのは次期の計画に盛り込むべき重要な課題と事務局としても捉えています。こちらの課題を具体的に計画に取り組んでいけるように考えていきたいと思っております。  |
| 会長  | 他に質問がありますか。   |
| 事務局 | 貴重なご意見ありがとうございます。資料5の6ページにもあるように本人の意識や生活ライフスタイルを変えていくということはなかなか難しいと思いますが、「自然に健康になれる環境づくり」というところがポイントになってくると思います。とても難しいことかと思いますが、歩く習慣も本人が意識するのではなく、生活の中で自然と取り組める環境づくりなど、健康分野の問題だけではなく、環境の問題として健康づくりを進めていくことが必要であると思っております。   |
| 委員  | 今おっしゃった様に「自然に健康になれる環境づくり」というのは、食や運動において重要だと思います。行動経済学の視点などが重要になってくるかと思うのですが、海外の有名な事例として、音符を階段に書いておいたらエスカレーターではなく階段を辿って上がって行くという事例がありました。そのようなことが若葉駅などで出来たらよいと思います。出来るところからしていただけると楽しい坂戸市になりそうだと思います。  |
| 委員  | 従来国が健康日本21で第2次で推し進めようとしていたのは「自助」もさることながら「互助」ということです。地域でお互い助け合うということを強化してきました。そうすると互助は第2次でどこまで出来て、第3次ではどの程度、地域での枠組を従来と違った形で整えていこうとしているのかということに注目していかなければいけないと思います。先ほどの資料5の11ページの中にもそのことについて書かれており、市町村で計画をする際にはこの基本方針を踏まえること、都道府県の健康増進計画を勘案するという事が書かれています。埼玉県の計画を確認したところ、県の方でも課題に上がっています。坂戸市でも引き続き課題として取り組むべき視点が、国や県と重なっているところもあれば、若干異なるというところもあるので、国や県の動きともクロスさせながら総合的に取り組めるような計画を実案出来ればと思います。 |
| 会長  | ありがとうございました。<br>他にご意見等いかがでしょうか。無いようでしたら骨子案としてこの形で進めさせて頂きたいと思っておりますので宜しくお願い致します。<br>ご承認いただきましたのでその他に移りたいと思っております。  |
|     | 審議事項(5)説明   |

|       |   |
|-------|---|
| 会 長   | ご質問、または提案等ございましたら意見をお願いいたします。   |
| 委 員   | 先日、ゼミ生が隣の市でインターンシップをした際に年配の方々に iPhone などタブレットを使ってインターネット環境に馴染むという仕事に従事したと聞きました。他市では、iPhone やタブレットを年配の方々が日常生活で活用してできるような取組みや、情報をタブレット通じて受け取れるような取組みなど、そういった環境づくりをしているそうです。坂戸市ではそういったことを取り組んでいるのでしょうか。そして、そういった取組みを今から整備しようとしている健康づくりの情報を配信するツールとして使用できるのでしょうか。 |
| 事 務 局 | タブレットの使い方の指導ではないですが、コロナワクチンの申し込みをするために、タブレットやスマホを使用した申し込みの支援を城西大学や現役大学の学生にお願いしたという経緯はございました。  |
| 事 務 局 | ペイペイのキャッシュバックの制度を始めたときにスマホの使い方教室を他課でやっていたかと思います。高齢者向けの端末の使い方などは国が環境整備し、au やドコモなどのキャリアに委託してやっておりました。市としては具体的に動いていなかったのが実情です。   |
| 事 務 局 | 以前、北坂戸にぎわいサロンで、東京電機大学の学生がスマホの使い方やタブレットの教室をやっており、大変好評だったと聞いています。最近ではコロナの影響があり、現在もやっているかわかりませんが、機会があったらまた検討していきたいと思います。   |
| 委 員   | 国の第3次の案の中にも ICT の活用が盛り込まれているので、市としてもいかにしてうまく組み入れていくのかというのが非常に重要だと思います。個人個人の行動変容や情報リテラシーを高めていくのにも ICT の活用というのは非常に役に立つもののため、理解し馴染んでいく環境を作るのも総合的に取り組むという意味では重要になるのではないかと考えています。  |
| 会 長   | ありがとうございました。<br>何かご意見、ご質問ありますか。   |
|       | 質問無し  |
| 会 長   | それでは以上で本日の審議事項については全て終了いたしました。  |
| 事 務 局 | 4 その他について説明   |
| 事 務 局 | それでは以上をもちまして第1回坂戸市健康なまちづくり審議会を閉会いたします。  |